



### 濃翠漫想 二

赤井 嶽 男

強く叩けば新しき世でも、お城と一帯に電柱が立  
埃が出て来る。仔細に眺  
むれば小野小町や揚貴妃  
やクレタトトラもそれぞ  
れの中分が無いではないに  
角立てるのも大人気ない  
其の歌でも芭蕉の句で  
も批評眼に照せば必ずし  
も指摘せらるべき點無し  
とは限れない  
蘇峰翁の日々より(一昨  
十二日東日紙上)の一編で  
ある

### 比叡山

浄土院 島田 夫

之と同じ日に平凡社の大  
百科月報で「親鸞上人」  
の弟子の「開巻初づ鼻の書  
刺りに火繩銃を立て掛けた  
處が出て居るが鐵砲は天文  
十二年にポルトガル人が大  
隅の種子ヶ島へ齎したもの  
でそれより三百年も前の鎌  
倉時代にそんなものがあり  
やうない」と云ふ様な意  
味の揚げ足とりを讀んだ。  
感うなると二十年前に一時  
所謂浴桶の紙價を高からし  
めた傑作も蓋無しになつて  
了ふ

### 地方新聞學藝欄の編輯

灰山 生

地方新聞學藝欄の編輯で編まれてゐるのはどうし  
をなさざる新聞は殆ど皆 たいやうからうか  
無といつて程、いやし そんないづつでも使へる原  
も日刊の新聞である以上稿は惜しみなく棄てる大  
學藝欄を設け何から掲載に學藝諸般の事象を論じ  
してゐるが、その中で最もユニークな創作も掲載し  
目につくのは、同盟及び博たならどればと精彩を放つ  
報章あたりの原稿で「短歌かしのない  
手引」とか「美術鑑賞の かいへば原稿がない  
ごに新聞學藝欄本家の使命なり二人なりその新聞社  
たる時代思潮の流れを見出しに學藝部員といふ人間が  
ことの出発ない原稿のみならず、記者は汽車に

夕刊 天気豫報  
今晩も明日も北東  
の風小雨模様  
六月十四日(日) 六月十五日(月)  
六月十六日(火) 六月十七日(水)  
六月十八日(木) 六月十九日(金)  
六月二十日(土) 六月二十一日(日)

平三小學校児童數百名の  
一行は、昨早朝樂しい修學  
旅行として一路直駛日光  
東京方面に出發した。淺草  
重慶の裡に繪の如き陽明門  
の絢爛豪華を觀風夜何よも  
も思慕景の對象としてあ  
つた靈風の宮城を遙拜して  
彼等は如何に驚異と歡喜の  
眼を輝かした事であらう  
か。それに付けても考へら  
れるのは附添ひ父兄の行動  
である。即ち一部の觀送が  
車中子の爲に靈望に都合の  
良い座席を占むるに焦り或  
は宿屋で綺麗な夜具の餘  
に血眼になるなどの不心得  
を敢てしつて前測の絶無で  
なかつた筈である。それで

慕ふ者 西山 孝頼  
別れた者はなつかしくは  
去り行く者は慕はしい  
静かに話しを聞かして  
その面影が浮かびくる  
想うてにつかれた乙女子  
は  
心おきなく君が名を  
呼んで見たいよな雨の夜  
逢うて話しをしたいけ  
たよ雨の音ばかり

贈松崎治翁 珠風 小野務平  
欲救窮民效誠  
幾難多義奏功得  
郵巷化爲新市城

△空海上人生  
(寶篋五)△山鹿素  
行救免(延寶  
6月15日  
三)△遣使小野妹難  
波に歸者(推古天皇△)  
權太題開題式(明治四〇)

地方新聞の編輯で編まれてゐるのはどうし  
をなさざる新聞は殆ど皆 たいやうからうか  
無といつて程、いやし そんないづつでも使へる原  
も日刊の新聞である以上稿は惜しみなく棄てる大  
學藝欄を設け何から掲載に學藝諸般の事象を論じ  
してゐるが、その中で最もユニークな創作も掲載し  
目につくのは、同盟及び博たならどればと精彩を放つ  
報章あたりの原稿で「短歌かしのない  
手引」とか「美術鑑賞の かいへば原稿がない  
ごに新聞學藝欄本家の使命なり二人なりその新聞社  
たる時代思潮の流れを見出しに學藝部員といふ人間が  
ことの出発ない原稿のみならず、記者は汽車に

地方新聞の編輯で編まれてゐるのはどうし  
をなさざる新聞は殆ど皆 たいやうからうか  
無といつて程、いやし そんないづつでも使へる原  
も日刊の新聞である以上稿は惜しみなく棄てる大  
學藝欄を設け何から掲載に學藝諸般の事象を論じ  
してゐるが、その中で最もユニークな創作も掲載し  
目につくのは、同盟及び博たならどればと精彩を放つ  
報章あたりの原稿で「短歌かしのない  
手引」とか「美術鑑賞の かいへば原稿がない  
ごに新聞學藝欄本家の使命なり二人なりその新聞社  
たる時代思潮の流れを見出しに學藝部員といふ人間が  
ことの出発ない原稿のみならず、記者は汽車に

地方新聞の編輯で編まれてゐるのはどうし  
をなさざる新聞は殆ど皆 たいやうからうか  
無といつて程、いやし そんないづつでも使へる原  
も日刊の新聞である以上稿は惜しみなく棄てる大  
學藝欄を設け何から掲載に學藝諸般の事象を論じ  
してゐるが、その中で最もユニークな創作も掲載し  
目につくのは、同盟及び博たならどればと精彩を放つ  
報章あたりの原稿で「短歌かしのない  
手引」とか「美術鑑賞の かいへば原稿がない  
ごに新聞學藝欄本家の使命なり二人なりその新聞社  
たる時代思潮の流れを見出しに學藝部員といふ人間が  
ことの出発ない原稿のみならず、記者は汽車に

地方新聞の編輯で編まれてゐるのはどうし  
をなさざる新聞は殆ど皆 たいやうからうか  
無といつて程、いやし そんないづつでも使へる原  
も日刊の新聞である以上稿は惜しみなく棄てる大  
學藝欄を設け何から掲載に學藝諸般の事象を論じ  
してゐるが、その中で最もユニークな創作も掲載し  
目につくのは、同盟及び博たならどればと精彩を放つ  
報章あたりの原稿で「短歌かしのない  
手引」とか「美術鑑賞の かいへば原稿がない  
ごに新聞學藝欄本家の使命なり二人なりその新聞社  
たる時代思潮の流れを見出しに學藝部員といふ人間が  
ことの出発ない原稿のみならず、記者は汽車に

妖刀流轉 (113) 邑井 貞吉  
悪黨同志 (三)  
然し軍謀はなかく用心  
深い、蛇の様な文助に、姓  
根を見らなはた向々此奴に  
頭が上らなはと思つたから  
故意と立腹の體を装ひ、  
軍これ文助酔つてゐると  
は云ひながら、口にして  
事と悪い事があるぞ、遠  
藤殿は拙者の恩人だ、その  
恩人の妻女で、而も貞淑の  
物堅いおちか殿に假にも左  
様な淫らな心があるつ  
て堪るものか、そんな事な  
ら先方へ聞いたら何と  
安心立てもい、加減にし  
つゝよに近づいて来たの  
を、次第によつては許さん  
で、熊吉は不意に我名を呼



と酒を切り下り、これから目  
分のお楽しみに出かけるつ  
申す迄もなく此奴は前身  
が遊び人で、この御城下へ  
来て毎夜賭場が開かれる  
穴を心得てゐます、宿外れ  
に表向は安泊りと思せかけ  
奥の二階に人を集め丁半  
の争ひをしてゐるのが土地  
の博徒で瘦の三九郎といふ  
男  
此家へ文助が入つて来る  
と車座になつて勝負々々の  
真最中、皆んな目の色を變  
へてゐるのは淺ましいもの  
ですと隣の所へ座つてゐた  
旅装の若い者が今文助の熊  
吉が入つて来たのを見ると  
「オ、熊吉兄いぢや  
「何、熊吉兄いぢや  
と半分位酔になつて飛び  
床几を引張出して兩人と  
目をかけた。  
四邊は見晴し田圃だから誰  
も聞いてゐる者はないが、  
夏の夜の事とて蚊が蚊が  
ンンンン、二人とも汗  
圓顔でバタ／＼拂ひながら  
與四郎が熊吉に向つて  
「熊吉兄い、お前の生れ  
は武州の大和田だといつた  
な」  
熊吉は、年が年中旅鳥  
で、尻の据はらね俺だか  
ら、故郷の事を聞かれると  
面目もねえ次第だが、俺だ  
かて生れから、賽ころを掴  
んで母の腹を飛出した譯  
ぢやアね、生家は堅氣の  
百姓で、今は兄貴の代にな  
つてゐるが、俺は小見の時  
分から來行が、十八の  
時に飛出したつて、其の  
後一度も親元へ便りをした  
事もねえ不孝者だが、兄貴  
は傑作といつて大和田百  
姓をしてゐる等、親父は先  
年亡くなつたて、事を聞い  
たが、母親は何したか、今  
更極り悪いから、消息をす  
る事も出来ねえやつさ」

地方新聞の編輯で編まれてゐるのはどうし  
をなさざる新聞は殆ど皆 たいやうからうか  
無といつて程、いやし そんないづつでも使へる原  
も日刊の新聞である以上稿は惜しみなく棄てる大  
學藝欄を設け何から掲載に學藝諸般の事象を論じ  
してゐるが、その中で最もユニークな創作も掲載し  
目につくのは、同盟及び博たならどればと精彩を放つ  
報章あたりの原稿で「短歌かしのない  
手引」とか「美術鑑賞の かいへば原稿がない  
ごに新聞學藝欄本家の使命なり二人なりその新聞社  
たる時代思潮の流れを見出しに學藝部員といふ人間が  
ことの出発ない原稿のみならず、記者は汽車に

産科 婦人科 午前住宅診  
午後往診  
花柳病科 入院應診  
井坂 醫院  
平市田町(元合津醫院跡)  
電話五五九番

夜間 診療  
内科 専門  
皮膚科 性病科  
花柳病科 胃腸病科  
院醫科性胃村松  
(番七〇一電町南市平)

耳鼻科 専門  
平市南町一六番地  
大和田醫院  
(入院隨意) 電話一七〇番  
(病室完備)

吸入用酸素 純度99%  
モリサシ  
ハカリ  
開内藥局  
電話四〇番

磐城の御みやび品  
霊峰羊羹 金十錢  
柿羊羹のり羊羹  
沼ノ内辨天羊羹  
御旅のお出入には好都合のお土産品です。  
小賣御希望の方お申下さい。  
小川郷前  
平屋賣店

放大六音留  
電話下各園六七七番  
私は平市出身ですから特に郷里の  
皆様方の爲めに御便宜を圖ります  
主人 比佐棟雄

御贈答品には  
平市四丁目  
穴戸屋商店  
電話(鮮魚部)四〇七番

男女學生夏服  
高嶋屋の洋服  
新柄背廣 レンコート  
注文並ニ既製品  
高島屋  
平市二丁目 電話三八六番

桑原柔道整骨院  
平市公園下  
電話六七四  
神経痛ニオレンヂ  
リウマチスニパスチ

耳鼻咽喉科  
高柳醫院  
醫學博士 高柳博明  
平駅前(電三三六)  
(自來ノ便アリ)

無産派と町議 郡下町議議員選挙に...

物價高も何處吹く風 躍進を辿る地方炭界...

今夏八月には 全町内に給水 四倉上水道工事進む...

東洋モスリンから 女子の大量求人 平職業紹介所へ申込み...

測候所統制 気象観測事業は現在...

平商野球善戦 水戸一勝一敗...

電氣協 明年は植田町 十一日若松市電氣株式...

區民七十名列席 鎌田振興會生る...

中大庭球選手 篠原氏指導...

湯本町議當選者 八高木己吉...

行倒れの老翁を救ふ 湯本の兩君近く表彰...

市長杯は 西村藥局の郡君へ...

四倉藪市場 十三日取引...

吉田眼科醫院 六丁目 電話三〇九番...

木村外科醫院 電話三〇九番...

女子從業員大募集 勤務先 三重縣四日市...

東洋モスリン株式會社 三重工場...

平商野球善戦 水戸一勝一敗...

槍投 候補者と約束...

湯本町議當選者 八高木己吉...

市長杯は 西村藥局の郡君へ...

藝妓置屋聯合會 来る二十四日初總會...

西村藥局の郡君へ 全國でも初試みの...

湯本町議當選者 八高木己吉...

行倒れの老翁を救ふ 湯本の兩君近く表彰...

市長杯は 西村藥局の郡君へ...

四倉藪市場 十三日取引...

吉田眼科醫院 六丁目 電話三〇九番...

女子從業員大募集 勤務先 三重縣四日市...

東洋モスリン株式會社 三重工場...

平商野球善戦 水戸一勝一敗...

槍投 候補者と約束...

湯本町議當選者 八高木己吉...

市長杯は 西村藥局の郡君へ...

四倉藪市場 十三日取引...

吉田眼科醫院 六丁目 電話三〇九番...

女子從業員大募集 勤務先 三重縣四日市...

東洋モスリン株式會社 三重工場...

平商野球善戦 水戸一勝一敗...

槍投 候補者と約束...

湯本町議當選者 八高木己吉...

市長杯は 西村藥局の郡君へ...

木村外科醫院 電話三〇九番...

女子從業員大募集 勤務先 三重縣四日市...

東洋モスリン株式會社 三重工場...

平商野球善戦 水戸一勝一敗...

槍投 候補者と約束...

湯本町議當選者 八高木己吉...

市長杯は 西村藥局の郡君へ...